

令和6年度の教育活動等に対する学校評価書

令和7年2月12日

学校法人大雄学園青島こども園長  
 学校法人大雄学園学校関係者評価委員会

伊藤 正見  
 牧野 好洋

- 園の教育目標 『心豊かな人間の育成』
- 本年度の重点目標 「がんばる子 やさしい子」
- 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	園としての成果や課題、改善策	評価点	意見
教育成果	親や子どもは園での教育活動に満足している①	A	○藤枝市私立幼稚園・こども園協会の公開保育の機会をいただいたのをきっかけに、今まで以上に子どもの主体性を育むための保育の実践を目指し、職員一同がベクトルを同じくして実践を積み重ねた。子どもの自己決定の機会が増え、活動へのより積極的な姿が現れるようになったと共に保育教諭の保育力が確実に向上した。 ○一人一人の子どもが毎日を楽しみ過ご姿が見られる。またその成長を保育教諭も敏感に感じ、保育の工夫に悩みながらも、仕事へのやりがいを感じている保育教諭が増えた。 ○保育教諭が一人一人の園児の発達段階に応じ、生活習慣を身につけさせなければいけないことも多い。子育てについて保護者との共有さらに図ってきたい。	A	○園の教育活動には大変満足している。朝子どもを送ってくるが、周りの様子を見るなどの子ども気持ちよく迎えられる。職員も元気よく子どもも元気をもらっている感じである。 ○家に帰ってからの子どもの様子を見ると園の中で楽しく過ごしていることが十分感じられる。 ○職員もやりがいを持って子どもの保育教育に当たってくれているようで感謝している。
	職員は親や子どもに信頼されている②				
教育課程	教育目標に沿った教育③	A	○職員が教育目標や重点目標を共通理解し、主体性を育むことを念頭に、子どもを真ん中にした毎日の保育教育活動や行事を行った。 ○保護者の声に耳を傾けながら柔軟な教育課程の実施に努め、重点目標の具現化につなげた。 ○特性のある子どもについては、職員全体での保育教育を目指すと共に、保護者と課題を共有し、関連機関へつなげることで子どものより良い成長に促すことができている。	A	○職員同士のチームワークの良さが感じられる。言葉を交わさなくても連携をとりながら保育教育を進めているところは素晴らしい。 ○職員同士が同じ方向を向いて保育教育に当たっているということは、教育目標が共有されているということであろう。 ○この地区には優秀なお子さんも多く、協調性はあるが、主体性が弱いことが小中でも課題になっている。その課題解決に向けても園で主体性を育てることに重きを置いて保育教育されているところがいい。
	一人一人を大切に、発達年齢に応じた保育⑤				
	園行事⑩				
教育環境	保育室、園庭、遊具等、園での教育環境④	A	○月1回の防災訓練を充実した。園庭への避難だけでなく、宗乗寺への避難、簡易トイレ設置、発電機操作、子どもによる消火訓練体験等も子どもはもちろん職員の防災意識の向上につながっている。 ○ヒヤリハットのチャットによる共有を図った。随時情報を確認できるので職員の安全な環境作りへの意識が向上した。 ○月1回の安全点検を丁寧にを行い危険箇所については素早い修理対応に心がけた。また安全対策部では園内の危険箇所についての月1回の研修会が定着した。	A	○園庭が広く、保育室からすぐに園庭に出られるという環境が素晴らしい。 ○入り口の門で、送ってきた母親が仕事に出かけてしまい、子どもが泣いているところを見たことがあるが、間髪入れずに子どもに寄り添う保育教諭の姿が見られた。子どもの安全安心が保たれていると感じることができた。 ○地域には園の苦情が住民から聞こえてくることはない。園周辺の道路の整備や危険箇所の信号機設置など行政に声をあげている。送迎の際道路に車の渋滞を招くようであればその対策をとり、より一層の安全対策をお願いしたい。
	安全な環境について配慮⑧				
保護者対応	親や子どもに信頼されている②	B	○園日より学級だよりに加え、今年度リニューアルしたホームページに保育活動の写真掲載も増やして、子どもの様子を丁寧に知らせた。 ○保育部では毎日保護者と話をする時間がある程度とれるため保育教諭への信頼を大いに得ている。一方で教育部では送迎時努めて話をするようにしているが十分と言える状況にないと感じる。子育て相談日等の利用も含め更なる保護者と情報共有に努めたい。 ○子ども同士のトラブルの対応や怪我をした子どもの対応は丁寧にやっているが、保護者への連絡の仕方や方法については課題が残った。	B	○ホームページへ子どもの様子をこまめに掲載してくれているので、園での様子を知ることができ大変ありがたいことである。しかしながら以前と比べると直接保護者とノートを通して文章でのやりとりをすることが減り残念に思う保護者もいる。 ○送迎の際子どもの良さを伝えようとする園の思いは感じるが、十分な時間がとれないことが多い。今後、子どもの成長を保護者と職員が共有できるように、子どものことを語り合う場面や時間を生み出す工夫をしてほしい。
	子どもの様子を丁寧に伝えている⑥				
連携	家庭や地域と連携した教育活動を行っている⑦	B	○地域の方の力を借りながらおにぎり作り、お茶会、味噌づくり、太鼓指導などを通して保育教育活動を充実させることができた。 ○青島東小学校の職員が何回も本園に訪れ保育の様子を参観した。また保育の様子をビデオに収め（保育教諭の子どもへの関わりについて）研修の時間もとったとのこと。小中の接続を意識した交流になった。また3月5日には青島東小学校1年生との交流も行う予定である。（交流についてはコロナ禍を経て、数年ぶりに復活である。） ○役員による劇ごっこ衣装作り、製作物の準備や保護者の絵本の読み聞かせはPTA活動の充実と保育教諭の働き方改革へつながるものであり、今後も更に充実させたい。 *地域の中の園について考えていかなければならない	A	○園と小学校の連携は年々充実してきている。それが子どもの健全な成長につながることは間違いないことである。今後園から小学校への架け橋期に、より中身の濃い関わり合いが求められる。更に充実させていきたい。 ○お散歩等で園外に出るときに、地域住民とは日常の連携がはかれるのではないかとと思う。小石川町には魅力ある公園がなく、それが残念である。今後行政にも働きかけ、憩いの場をつくることができればいいのだが。 ○地域の中で更に魅力を発することができると園のあり方について今後地域と共に考えていく必要を感じる。
	給食や栽培など、食育が適切に行われている⑨				
食育	給食や栽培など、食育が適切に行われている⑨	A	○野菜栽培やひまわり栽培を通し、植物の成長の喜びを感じることができた。またおにぎり作り、ゼリー作りや魚の解体ショー等、体験的な食育活動を実施し、園児の食に対する関心や理解が深まったと共に食への意欲につなげた。 ○子供達は職員室前の給食コーナーの給食クイズを毎日楽しみながら考えることで、食への関心は着実に高まっている。 ○健康に配慮した給食メニューは、保護者の評判も良い。更に期待は高まっている。手作りおやつを増やしてほしいという意見もごく少数ある。	A	○ゼリー作りや魚の解体ショー、おにぎり作りなど子どもに食への興味がわくよう、よく工夫されていて子どもにとって素晴らしい環境である。こういう小さな事実が子どもにとっては嫌いなものでも少しは食べられるようになるための工夫をしていると言えるのではないかと。 ○家ではなかなか作らないような献立も用意されていてありがたいことである。 ○節分の際の献立に鬼の顔を作るメニューがあったと聞いたが、子どもが楽しめるような給食を考えてくれて子どもは幸せである。

評価点 A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった